

竹取新聞

発行所
株式会社 カグヤ

第165版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤクルーブログも
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで
f 神家総本家 聴福庵

参画という場づくり

先月号の竹取新聞ではミマモリングソフトの冬期セミナー前編で挑戦した「実践レポート」の提出率が上がり、参加者がより主体的になりやすい環境づくりについて記事を掲載しました。

具体的には安心して参加できる場づくりとして、実践レポートを提出して、当選した（参加者から支持された優秀な実践事例のこと）としても「辞退してもよい」としたことで。また、当選した方へのご褒美としてお送りしていたスイーツを、今回からは複数の選択肢の中から自分の好みのものを選べるようにしたこと、提出率が30%アップしたという内容でした。嬉しい反面、どちらの取り組みに効果があったのか分からないので気になります。

そこで後編のセミナーにて参加者の方々にアンケートを取ってみました。どちらの取り組みも参加者の90%以上の方からモチベーションアップの効果は「大いにあった」もしくは「あった」と回答頂きました。



参加者お一人お一人が安心して学べる場づくりを探求中です！

実践レポートも実践発表もスイーツも以前のセミナーでも既にあったのですが、一方的に提供するのではなく、「参加者自ら選択できる機会」に変更を加えたことで大きく変化が生まれ、大変嬉しい結果となりました。

「子どもたちは大人から一方的に与え続けられるのではなく、子ども自らが選択できる環境が大切」という保育の中での学びを今回もセミナーの環境づくりに活用させていただきますました。このように、それぞれがその場に『参画』できるような環境づくりというのは、子どもたちだけでなく社会のどのような場面でも大切な要因なのではないかと感じます。子どもたちから学び、保育から学び続けるということは、これだから楽しくてやめられません。（眞田海）

冬期ソフトセミナー

3月末に実施したソフトセミナーでは、3園の先生方に2歳児クラスの実践発表をしていただきました。発表内容は以下の通りです。

- ①スプーンからお箸に移行していく過程の実践。スプーンを使った遊びやクリップを活用するなど、市販製品では補えない一人ひとりの発達に合わせた手作りの実物もご用意いただき、遊びながら身につけていく過程の発表をして頂きました。
- ②時と場所に応じて、声の大きさを子どもたち同士で調整できるような移動式の環境づくり。壁面への掲示だけではなく、お集まりの際などにも持ち運べるよう紙皿サイズにした工夫は、多くの園からうちでも真似してみたい！との声が多く聞かれました。
- ③顔周りの汚れに自ら気づき、きれいにできる環境設定。環境を用意したことで子どもたちの動線が自然と変わったと言います。他園の見学の際に持ち帰り取り入れた実践内容が、今回の発表を通してさらに多くの園に実践を



ミマモリングアドバンスの詳細につきましては、QRコードを読み取るか、カグヤホームページをご覧ください！

広げる役割を担われました。

園において3月は、職員間で子どもたちの発達を引き継ぎ、翌年度の準備をされる時期かと思えます。今回のセミナーは移行期の取り組みを発表していただく機会となり、園同士で取り入れやすい事例を共有する場となりました。

今年度も春期セミナーがはじまり、これまで以上に日々の保育に活かして頂けるようにと願いを込めて、ソフトセミナーから「ミマモリングアドバンス」へ名称を変更しました。夏期セミナーからもご参加頂けますので、ご興味のある方は、ぜひお問い合わせください。（奥山卓矢）

子どもの声から学ぶこと

東日本大震災から12年が経ちました。あの日起きたこと、私たちが経験したことを振り返り、次の世代のために自分たちがどう行動するべきかを確認し合う「大切なことを忘れないDAY」という時間をカグヤでは毎年3月11日に設けています。この12年の間には「防災鉄則の5箇条」を設け、防災とは何かを自分たちなりに話し合い実践したり、新型コロナウイルスも有事とらえ、どんな生き方・働き方をして有事を乗り越えていくかを決めたりしてきました。

今年の「大切なことを忘れないDAY」では、「子どもたちの声から学び、行動に移



大切なことはいつも子どもが教えてくれます。

す」をテーマに、震災当時子どもだった方が大人になり、震災の語り部として活動している動画を見ました。その中の「助かったことが『奇跡』と言われるけれど、『奇跡』のままではいけない、もっと防災の勉強をして助かることを当たり前にしていかなければならない。人の役に立つために語り継いでいく」という力強い言葉が印象的でした。私たちが命を守るために本気で防災を考えなければならぬと強く感じた言葉でした。

そこで、クルーとパートナーさん全員が集まる毎月の会議で「大切なことを忘れないDAY」での気付きを共有し、次回の会議までにそれぞれが家族や身近な人と具体的な避難経路や連絡が取れない時の集合場所などを話し合い、共有することとしました。災害はいつやってくるかわからないからこそ、備えは後回しにしていいものではありません。子どもたちが残してくれた気付きや行動から大人も学び、行動に移していきたいと思えます。（眞田由莉）

カグヤでは、それぞれが別々の場所においても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

手作り防災グッズ



日用品を使って色々つくれるようで、子どもたちと一緒につくれば、工作感覚で防災教育にもなりそうです。

私たちは毎月全社員で初心を再確認し合うために「初心会議」を行っています。スタート時には毎回担当クルーが「皆がリラックスし協力や協働を引き出せるように」と内容を考えアクティビティを行っています。

先月は、表面記事にもあるとおり「大切なことを忘れないDAY」からの流れで、みんなで防災グッズを手作りする場を用意してくれました。

日本の智と慧

その後

3月末にて弊社副社長の藤堂が退職しました。2020年12月から連載が始まった「日本の智と慧」。毎月の校正会にて原稿を本人に朗読してもらう度に「この朗読の声も含めてお客さまにお届けしたい」「まだ余韻に浸っていたい」などの声飛び交うほど素敵な時間でもありました。朗読会のような豊かな時の中で日本の素晴らしさを学び、藤堂さんから多くのことを吸収してきました。

そんな「日本の智と慧」の連載も退職に伴い先月号で終了。これまで綴られてきた25の記事たちを読み返

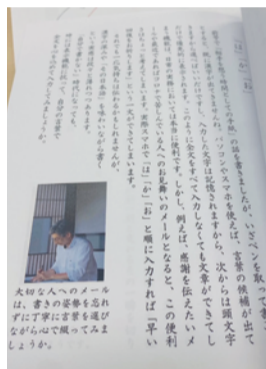
ビニール袋とはさみを使って自分たちでレインコートをつくっていくもので、簡単にあるものでつくられることを知りました。「備えあれば憂いなし」と言いますが、災害時にはモノの備えだけでなく、知識の備えも心構えや気持ちの余裕をもたらしてくれるでしょうから、大事なことだと感じました。

アクティビティに限らず、いつもみんなのことを考え、目的から色々と考えてきてくれている仲間のおかげで、会議はもちろん、様々な仕事に成り立っていることに改めて気付く思いです。感謝と共に、私自身も繋がりを大事にしながらかせて頂けたらと思います。（宮前奈々子）



「アクティビティ」の参考例は、こちらからご覧いただけますので、よろしければ、ぜひご活用下さい。

してみると、日本に残る古き良き智慧がその時々々の季節に合わせて綴られています。四季に織り交ぜられた日本の智慧たちは、子どもたちのみならず、これからの日本に残していきたい原風景であるように感じます。そこで、この25の記事たちを一冊に纏めてみることにしました。デザインや構成も含めてプロジェクトメンバーで煮詰めているところですので、また来月のこの枠にてご報告できればと思っています。（眞田海）



綴っていただいた大切な智慧。子どもたちへ紡いでいけるように形にしたいと思っています。

一期一会庵

卒業と道

春の陽気で新芽が芽吹き、瑞々しい風が山々から吹いてきます。3月末に12年の間、一緒にお志事をしてきたクルーの一人がカグヤを卒業されました。この卒業の卒という字の語源は「衣服のえりもとの象形に「一」を付した」という字で、もともと神職に携わる人の死や天寿をまつとうした人の死のときに用いる衣服を意味し、それが転じて「おわる」を意味する漢字が成り立ったといわれています。また英語ではgraduationといい、語源はラテン語のgradusで段階や階段という意味になるそうです。どちらも人生修養の道の一つの節目を迎えて、また新たな道場に自分を運んでいくのが卒業するということかもしれません。

思い返せばこのクルーとの出会いは東日本大震災の真ただ中で、あの体験から新たなカグヤの生き方と働き方の挑戦をはじめた頃でした。内省を続け、子ども第一義の理念を掲げて、何がもっとも子ども（子孫）のためになるのかを純粋な思いでこれまでずっと取り組んできました。私たちの会社は、園にいる子ども

たちを見守ることで得られる事業によって存続させていただいております。だからこそ、その有難くいただいているものを子どもたちにさらに、善いものにして還元できるように、子どものお手本になるような大人になろうと一念発起して生き方と働き方の一致に12年間取り組んできました。今では、暮らしを中心に徳を磨き、善い会社になろうと環境も見直し、子どもの憧れる生き方と働き方に少しずつ近づいてきたようにも感じています。これも出会いがあったからで、初心を大事に歩んでこられたからです。人のご縁は、いつも一期一会です。

出会えなければはじまらなかった物語があり、出会うことでしか得られなかった物語に満ちています。人生で同じことは二度とはなく、同じ日も二度と来ない、常に一度きりのご縁であり出会いです。よく来世でもまたなどと思いたしますが、しかし物語から省みるといつも出会いは一期一会であったと思います。道を歩んでいく中で、巡り会い、高め合い、支え合い、見守り合える方と結ばれることは最幸の仕合せです。これからも今までの出会いに恥じないよう、初心を忘れずに互いを信じ今とご縁を大切に歩み続けていきたいと思っています。（野見山広明）

編集後記



新年度がはじまり、新たな一歩を踏み出しました。

卒業したクルーに私自身も大変お世話になりました。教わったことは数え切れず、汗水流した思い出も数多くあります。あつという間の12年と思うと同時に、DVD「釜石の奇跡」で語っていた当時小学生の子どもたちは、大人になり12年経っていることを改めて感じ

ました。「子どもたちの声を聞く」をテーマに今回学びの時間を設けましたが、私自身、日々子どもの声を聞いているだろうかと考えてしまいます。この12年間で教えて頂いた「智慧」を今度は子どもたちに伝えていけるよう、励んでいきたいと思っています。（奥山卓矢）

カグヤは「子ども第一義」の理念を实践し、お客様の発展と自立に貢献していきます



ライトハウス(灯台)
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.050-1744-8823
fax.03-3518-6218

カグヤウェブセンター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218

働き方と暮らし方の一致
暮らしフルネスについて

